

## 今週（10月15日から10月19日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、当座預金残高は390兆円台半ばで小動きであった。無担保コールO/N加重平均レートは積み最終日となった15日こそ▲0.039%と上昇したものの、その後は積み序盤ということもあって低下基調となり、週末も特段取り急ぐ動きは見られなかった。業態別では、積み最終日となった15日は都銀業態で▲0.070～▲0.050%、信託業態で▲0.050%、証券業態で▲0.040～▲0.030%、地銀業態で▲0.070～▲0.010%のビッドと各業態で堅調な資金調達ニーズが示された。新積み期入りした16日以降は調達姿勢が後退し、都銀、信託業態で▲0.085～▲0.070%、外銀、証券で▲0.080～▲0.060%、地銀業態で▲0.086～▲0.030%程度の出合いとなった。ターム物はコール案件を中心に▲0.035～▲0.025%の出合いが見られた。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは19日に2W物・8,000億円がオファーされ、1,502億円（期落ち額1,403億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のGCは、レート低位で推移した。15日のT/Nから新積み期間となり、投資家の資金調達が薄くなったことに加え、短国の需給が好転していることもあり、オファーの薄い状況が続いた。概ね、出合いの中心は▲0.15～▲0.14%程度で、ビッドの薄くなった段階では▲0.11%前後までレートを切り上げて出合うという展開が目立った。GCターム物も、足元レートの低下を反映し、1Wで▲0.15～▲0.13%程度の出合いが中心だった。また、年末を跨ぐビッドが目立ち、3Mで▲0.15%程度の気配だった。

SC個別銘柄では、チーペストに絡む10年341、342が出難かった。入札のあった5年債、20年債は、比較的落ち着いた取引だった。

### ●短国市場

今週の短国市場は、引き続き償還日が年末越えとなる3M物を中心に、レートは低水準で推移した。一方で、短国買入オペは少額での実施が続いており、積極的な買いが入る展開でもなく、一定の需要が見られた後は閑散とした地合いとなった。

16日に実施された短国買入オペは、1,000億円でオファーされた。引き続き買入額が少額にとどまり、按分落札利回較差+0.015%、平均落札利回較差+0.016%と在庫調整の売りからか、弱い結果となった。

18日に実施された1Y物の入札は、WI取引において▲0.175%で出合った後、▲0.16%まで売られる展開となる中、平均落札利回▲0.1681%、按分落札利回▲0.1551%と前回債からレートは低下したものの、按分レートがやや流れる結果となった。セカンダリーでは、▲0.168%で少額出合った程度であった。

19日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.28%から▲0.31%まで買い進まれる展開となる中、平均落札利回▲0.2966%、按分落札利回▲0.2772%と、WI取引を反映して引き続き低いレート水準での決着となった。

### ●CP市場

今週のCP市場は、卸売、機械、鉄鋼等の複数業態で比較的多まった発行が見られ、週間償還総額2,600億円程度に対し、発行総額は7,000億円程度と発行超のマーケットとなった。9月末に16兆円弱に急減した市場発行残高は、18日時点で18兆349億円まで拡大したものの、7～9月の水準である19兆円台には届いていない。その為、買い手の余力もまだ十分にあるとみられ、発行残高が積みあがってきている銘柄においてもレートが大幅に上昇する動きは見られず、a-1格は0%付近の狭いレンジで決着している。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (円/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/15 (月)	22,271.30	0.140	111.99	△ 0.039	△ 0.133	3,966,300
10/16 (火)	22,549.24	0.145	111.86	△ 0.058	△ 0.138	3,968,100
10/17 (水)	22,841.12	0.143	112.39	△ 0.061	△ 0.139	3,949,000
10/18 (木)	22,658.16	0.149	112.51	△ 0.064	△ 0.146	3,959,200
10/19 (金)	22,532.08	0.145	112.32	△ 0.064	△ 0.134	3,953,300

## 来週（10月22日から10月26日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/22 (月)			
10/23 (火)	月例経済報告（内閣府）	流動性供給 6,000億円 10/24発行	
10/24 (水)	8月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	交付税借入 10,500億円 11/2借入	米ページブック 9月の米新築一戸建て販売件数
10/25 (木)	「ニッポンの革新力」シンポジウムにて若田部副総裁講演 9月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	2Y 21,000億円 11/1発行	ECB定例理事会(金融政策発表) 9月の米耐久財新規受注
10/26 (金)	10月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 43,000億円 10/29発行	7-9月期の米GDP速報値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/22 (月)	300	▲ 7,900	▲ 7,600	国債買入 全店共通 ETF買入 国債補完	▲ 1,400  1,900	2,900 1,500 500	5,400	▲ 2,200	TB3M発行▲43200償還42700 TB1Y発行▲21000償還14100 エネルギー対策借入▲6500期日5500
10/23 (火)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
10/24 (水)	▲ 1,000	▲ 4,000	▲ 5,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 4,000	流動性供給▲6000
10/25 (木)	▲ 2,000	2,000	0				0	0	交付税借入▲10500期日10500
10/26 (金)	▲ 2,000	1,000	▲ 1,000	社債買入			0	▲ 1,000	
週間合計	▲ 5,700	▲ 7,900	▲ 13,600	—	500	5,900	6,400	▲ 7,200	

10/22は日銀予想、10/23以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金需給は大幅な過不足は無い見通し。無担保コールO/N加重平均レートは引き続き低位で推移することが見込まれる。

レポ市場は、GC取引は、調達サイドの動向次第ではあるものの、引き続き積みの前半ということもあり、落ち着いた取引が予想される。

短国市場は、26日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。

CP市場は26日にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。前回のオペは買入額2,000億円と少ないながらも、直前のオペからの間隔が短く、応札可能な銘柄が然程増えなかったことから按分レートは横ばいの▲0.004%、平均レートは若干低下し▲0.001%となった。今回のオペも買入額が2,000億円と限られる中、前回オペから発行残高も増えていることから、目線は横ばいから若干上昇となることが考えられる。その一方で、高いレートで積極的に売却していくとも考えづらいことから、按分レートはわずかなマイナスで決着することが予想される。

主要なイベントとしては、海外では24日のページブック、26日に7-9月期の米GDP速報値の発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお選する書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入